長野県公運協だより
第165号
発行所
長野県公民館運営協議会
長野市若里1－1－4
県立長野図書館内
電話（026）217－6256
FAX（026）217－7015

第七十三回長野県公民館大会を終えて

実行委員長
安曇野市穂高公民館　館長　早川正美

夏の暑さが少し和らぎ、秋の訪れが待ち遠しい安曇野の地で、第七十三回長野県公民館大会が安曇野市穂高会館で開催されました。

本大会では中信地区公民館運営協議会、安曇野市公民館長・主事会を主管とし、「持続可能な地域づくりにつながる公民館活動について考えよう」をテーマに二日間の日程で、直面する課題解決の方策を県下各地から参集された皆様と研究、討議する有意義な時間を共有することができました。

大会初日は講演会と全体会が行われました。

講演会では、芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏から「文化による社会包摂～新しい公民館活動の役割～」を演題とし、地域が抱える現代的課題の事例をもとに、若い世代が選ぶのは「文化の薫る町」であり、私たちは「人と人をつなぐ町づくり」を推進していくことが大切であると教えていただきました。

平田オリザ氏

研修会では、自然環境功労者環境大臣表彰を受賞した那須野雅好氏から「公民館活動　仕掛ける面白さ～公民館主事経験の応用と実践～」と題し、公民館主事の経験から、地域住民や学校と連携して活動を仕組むことの面白さと自立した組織にするために実践したことを教えていただきました。

大会二日目は十分科会に分かれ、安曇野市内の世界かんがい施設遺産や産業の見学をはじめ、地域学校協働活動、公民館と防災活動、多世代にわたる持続可能な公民館活動などについて、明日につながる研修が行われました。

那須野雅好氏

日頃より公民館活動に取り組む皆様方が「集い」、共に「学び」、「つながる」ことができた二日間。皆様の明日からの公民館運営にとって意義深いものになればと願うばかりです。

最後に、大会運営の中核を担っていただいた県公運協と中信地区公運協の皆様、そして何よりご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

第四十七回 全国公民館研究集会 東京大会について

令和七年度は、全国公民館研究集会が七年に一度、首都圏で行われる年にあたり、東京国際フォーラムでの開催となりました。県内からは、八十名が参加しました。一日目の開会行事では、全国公民館連合会各種表彰の表彰式が行われ、県内からは次の三名の皆様が、永年勤続職員表彰を受賞しました。

永年勤続職員表彰

長野市立芋井公民館
小林公子

上田市中央公民館
永井祐一

飯山市富倉公民館
近藤良一

基調講演では、「地域のミライをひらく公民館」と題して、コミュニティデザイナーの山崎亮さんからお話があり、講演に続いて、山崎さんと元文部科学省生涯学習政策局長の河村潤子さん、那覇市若狭公民館長の宮城潤さん、そして昨年度の県大会で講演いただいた大正大学教授牧野篤さんによるシンポジウムが行われ、これからの公民館活動への熱い思いが語られました。

二日目は、映像作家の栗山宗大さんのムービーを挟んで牧野さんとアーティストのアサダワタルさん及び㈱グランドレベル代表取締役社長の田中元子さんとの対談など、ミライの公民館をテーマとして盛りだくさんな内容の大会となりました。

第二回公民館職員 オンライン講座

諏訪市公民館
主査　市川隆光

対面式が主流の世代ですので、一人で画面に向かって話すことや相手の反応が感じ取りにくいオンライン方式は、苦手意識がありなるべく参加を避けてきました。しかし今回は発表者の打診を頂いたため、思い切って参加しました。

今回は「私塾化」についての悩みや実例を発表させて頂きました。「私塾化」は、既に利用者となっている団体であることから、実体の把握が難しく既得権の主張などもあり対応に苦慮しています。

特に子どもを主体とした団体は立ち上げ時は保護者の組織が確立していてもメンバーの代謝が早いことから私塾化が生じやすいと感じています。若者の公民館離れを食い止めるためにも子どものことなら見逃したいという気持ちもありますが、利用する全ての団体に説明のつく利用をしてもらうためには指導を行っていかなければなりません。容認したい気持ちと公平性を保つための対応を行なわなければならない立場との間で悩みがありました。

筒井アドバイザーからは「講師が直接集金する仕組みにならないことが大切」「使用可否の判断は即答をせず、しっかりと検討を行って対処する」などの助言を頂きました。また、意見交換の場では「利用者とコミュニケーションをとりながら団体の状況を察知し助言を行うことも大切」等の意見でまとまり、今後に活かせる大変有意義なものとなりました。

私の様になんとなく苦手意識から避けている方が居ましたら、次回は気軽に参加してみて下さい。

ブロックニュース 北信

人の輪が紡ぐ防災

長野市立若穂公民館
館長　竹内三津男

長野市若穂は、犀川と千曲川の合流点付近に立地しています。二〇一九年の東日本台風災害では、千曲川の堤防は決壊を免れましたが、地区を流れ、千曲川に合流する保科川、赤野田川の洪水被害は甚大でした。

地域としては、従来から若穂地区住民自治協議会を中心にした防災訓練、各種研修会を実施してきました。ある時、住民自治協議会の皆さんとお話する中、もっと防災意識を高める方法はないかという事が話題となりました。

そんな折、二〇二四年秋に県公運協主催のオンライン講座にお誘い頂きました。テーマは「防災」。いい機会を頂きました。飯山公民館で防災士による講座を持たれたとの発表がありましたので、飯山公民館に連絡を取らせて頂きました。また、県公運協からも防災士さんのご紹介を頂きました。

このようなきっかけから、二〇二五年七月十二日（土）に、若穂公民館と若穂地区住民自治協議会の共催で日本防災士会長野県支部長の大久保さんによる「防災教室」が実現しました。当日は、六十名の募集定員を上回る七十三名の参加を頂き、多くの参加者から「意識が変わった」とのコメントを頂きました。現在は二〇二六年に向けての企画を立案中です。

加えて、北信公運協の二〇二六年四月の定例総会は「防災」をテーマに、午前の会場を豊野防災交流センター、講演の講師を防災士の大久保さんにお引き受け頂き、午後は会場をクリーンピア千曲に移しての研修を計画しています。まさに、人の輪が紡ぐ防災です。

防災教室風景
（段ボールベッドの組立て体験）

リレーコラム

「長野県らしい公民館とは？」㉒

親子の笑顔が輝く公民館

上田市中央公民館
主事　関　晴香

私は、入庁と同時に現在の職場である中央公民館へ配属となり、約三年働いた後、五年半の産休・育休を経て、昨年秋に職場復帰しました。育休中に我が子を連れて他の公民館の講座や市内外のイベントに参加して良かったなと思った催しのひとつが、親子で一緒に音楽を楽しむことができる「コンサート」でした。

復帰後、この経験を活かし、なかなかコンサートに行く機会のない未就園児親子に、生の楽器の演奏を楽しんでもらうことを目的とした「0歳からのどれみファミリーコンサート」を中央公民館で初めて企画・開催しました。

参加者全員が親子のため、周りに特別な気を遣わずに参加できることや、参加費のコストを抑えられるため気軽に足を運べることが公民館でこのようなコンサートを開催するメリットだと考えました。また、出演者と相談し、当日は、演奏を聴くのみでなく、手遊び歌など身体を動かして取り組める内容も入れて、生演奏を聴きながら親子でふれあえる時間を提供することができました。参加者からは「こうしたコンサートがあまりないので、子どもと一緒にリフレッシュできた」という感想を多くいただきました。

手遊び歌を楽しむ親子

小さな子どもの子育ては、子どものかわいさとは裏腹、社会との繋がりが希薄になり孤独を感じやすくなります。また、公民館に来館する割合は、年代が下がるにつれて低くなる傾向があります。親子のお出かけ先として、「公民館講座」という選択肢が増えることは、今後の地域を担う親子の豊かな時間の増加や、公民館を知ってもらうきっかけに繋がるのではないでしょうか。今後も、親子の気持ちや実情に寄り添いながら、笑顔の輝く講座の企画運営をしていきたいと考えています。

ここに生きる

学級をとおした多世代交流

下諏訪町公民館
主事　皆川結萌

下諏訪町公民館では、乳幼児学級の「あすなろ学級」と成人・高齢者学級の「もみの木学級」の二学級を開講し、活動をとおして学級生同士が交流できるような企画をしています。

令和五年度までは学級生同士の交流がなく、当時の学級担当の「せっかくなら学級生同士で交流したい！」との声から、あすなろ学級で毎年企画しているミニ運動会を多世代交流ができるよう形を変えて令和六年度から実施してい

ます。この運動会は町スポーツ推進委員さんを講師に実施しており、どのように学級生同士の交流を増やし、できることの差を補っていくのか等悩みながら、「できる競技は一緒に、できない競技は応援する」形で進めることにしました。

今年度も多くの学級生が参加し、各競技を楽しむことができました。学級生からは「多世代交流の場が少ないからこういう機会は嬉しい」等の声がある一方で、控えめなお子さんが多かったこともあり、なかなか交流できず、「多世代交流」という面で課題が残りました。

そのため、来年度以降も開催の形を模索しながら継続していきたいと思います。

交流の様子

まつりだまつりだ東っ子

塩尻市塩尻東公民館
主事　大居昂裕

塩尻東公民館では地区に住む未就学児の親子を対象に「塩尻東子育てひろば」を月に一回程度（全十回）開催しております。この講座は、保育園に行く前の練習や子育て世代の親子の交流を目的としています。塩尻東地区のベテランママさんたちが集まり設立した「塩尻東子育てひろばボランティア会」が中心となり、公民館と社会福祉協議会が事務局として協力し講座の運営を行っております。

今年度は新たな取り組みとして、塩尻東地区の分館の一つである堀ノ内分館とタッグを組み、講座を開催しました。堀ノ内分館でも、未就学児を対象とした子育ての講座を行っており、双方の取り組みを繋げ、新たな交流を増やすべく企画しました。「まつりだまつりだ東っ子」と題し、親子三十組と大勢の方々に参加していただきました。夏祭りさながらの演出の中、お菓子釣りや盆踊りなど、親子で楽しみ交流する姿が見られました。

子育て講座に関しては参加者が減少傾向にありましたが、分館と一緒に取り組むことで新たな交流が生まれ、その後の講座でも多くの方々に参加していただけるようになりました。

県教委より
全国社会教育研究大会に参加して

十月二十九日（水）から三十一日（金）の三日間、岩手県盛岡市にて「第六十七回全国社会教育研究大会岩手大会」が開催されました。

初日は、理事会および事務局担当者会議が行われました。

二日目には、記念講演とシンポジウムが実施されました。記念講演では、国立天文台水沢ＶＬＢＩ観測所所長・本間希樹氏による「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」が行われました。続いて、シンポジウム「共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割とは～」が開催されました。

三日目には、五つのテーマに分かれて分科会が開かれ、活発な議論が行われました。

（生涯学習課
主任指導主事　篠原靖昌）